

日刊建設工業新聞

2016年(平成28年)7月8日(金曜日)

(12)

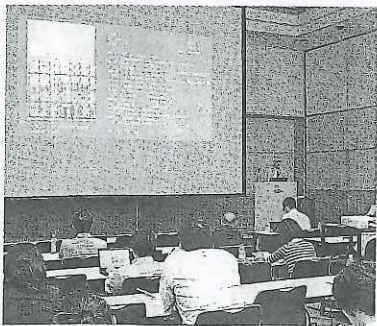
環境建築テーマにフォーラム

再生可能エネルギー協議会が主催する環境建築をテーマとしたフォーラム「環境・エネルギー・健康と快適性」が6月30日、横浜市のパシフィコ横浜で開かれた。写真。第11回再生可能エネルギー世界展示会・国際フォーラム(6月29日〜7月1日)で企画されたフォーラムの一つ。建築設計事務所やハウスメーカー、建材メーカーなどで環境建築に関わる専門家、学識者らが講演した。

再生可能エネ協議会

建築家の大野二郎氏(太陽エネルギーデザイン研究会会長)は「2050年に向けて地域ポテンシャルを活かした環境建築デザイン」をテーマに講演し、「今までの近代建築は内部環境を良くするためにエネルギーを使い、それが地球温暖化に寄与してしまってきた。

地域ポテンシャル生かす



た。自然エネルギーを使うことは、建物の外壁すべてがエネルギーを取り、建築的なデザインも変わっていく」と指摘。さらに、地域ポテンシャルとして気候や歴史、文化も生かしたまちづくりの重要性を訴えた。

「総合設計事務所が目指す環境建築と街づくりについて」と題して講演したのは日本設計執行役員環境・設備設計群長の柳井崇氏。ZEB(ゼロ・エネルギー・ビル)

や省エネ改修といった建物単体だけでなく、スマートエネルギーネットワークの実現に向けた街づくり、シミュレーションやBIM(ビルディング・インフォメーション・モデリング)、コミッションング(CX)など環境建築・環境都市の実現をサポートするエンジニアリングの視点からさまざまな取り組みを解説した。

基調講演では、東京急行電鉄都市創造本部の都甲義教氏が第25回地球環境大賞(主催・フジサンケイグループ)を受賞した「三子玉川の街づくり」を紹介。このほか迎川利夫(相羽建設常務)、奥田弘之(パナホーム戸建事業企画部商品企画グループチーフマネージャー)、石井久史(LIXIL R&D本部先進技術研究所主任研究員)、一ノ瀬雅之(首都大学東京准教授)、廣田桂子(岐阜県立森林アカデミー准教授)の各氏が講演を行った。